

17. 第13回 MSJ-SI (2020年度) 開催 報告書

●第13回日本数学会季期研究所「Differential Geometry and Integrable Systems」／「微分幾何と可積分系」

●日時：2022年3月1日(火)～3月21日(月)

●場所：大阪市立大学 杉本キャンパス 理学部 E棟 大講教室 E408, 理学部 F棟 中講教室 F415 (3月8日(火)～11日(金)), オンライン (Zoom) の併用開催

●組織委員：大仁田 義裕 (大阪市立大学), 安本 真士 (九州大学), マーティン ゲスト (早稲田大学), 小池 直之 (東京理科大学), 小磯 深幸 (九州大学), 小野 薫 (京都大学), ウェイン ラスマン (神戸大学), 酒井 高司 (東京都立大学), 山田 澄生 (学習院大学)

●運営委員：中村 あかね (城西大学), 森本 真弘 (大阪市立大学)

●参加者総数：140名, (内訳) ドイツ 8名, 米国 7名, イギリス 3名, 中国 4名 (香港 1名含む), オーストリア 2名, ロシア 2名, フランス 1名, 韓国 1名, デンマーク 1名, インド 1名, 日本 110名.

●http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/~ohnita/2020/MSJ-SI2020_e.html

●概要：第13回日本数学会季期研究所 (MSJ-SI) は, 2022年3月1日(火)から21日(月)にかけて, 微分幾何と可積分系をテーマに開催いたしました. 本 MSJ-SI は, 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて 2020年度から 2021年度に開催を延期することを決定し, 完全対面形式で開催することを目指しておりました. その後も感染症拡大が収束する見込みが立たなかったため, トピックスを主に調和写像や, 曲面と離散曲面の微分幾何の可積分系との融合研究に厳選したうえで, 最終的には対面オンライン併用で, 当初の予定よりも縮小した形で開催することとなりました. こうした状況にも関わらず, 3名のレクチャー講演 (1時間×2 また

は 1時間×3), 21名の国際会議における招待講演 (各1時間), および4名の若手研究者による講演 (各40分) を実施することが出来ました. このうち, 16名が海外研究機関所属の研究者, 3名の女性研究者 (うち1名は, レクチャー講演, 招待講演どちらも行っていません) であり, また国際会議では, 第一線の国際的な数学者だけでなく若手研究者の講演時間も1時間に設定いたしました. これにより, 若手研究者にとっては, 研究内容のより細部まで議論が行われる機会を提供することが出来ました.

本 MSJ-SI の最大の特徴は, 従来の MSJ-SI よりも開催日数を伸ばし, 対面での参加者のディスカッションの時間を十分に設けたことにあります. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて, 特に若手研究者にとっては研究の議論を行う機会はかなり減少しております. 対面での参加者はさほど多くはありませんでしたが, 少数であったことからより濃厚な議論を行うことが出来たと確信しております.

なお, 上記の通り本 MSJ-SI は当初の予定よりも規模を縮小して開催したことから, 今回の企画を本 MSJ-SI の第1弾と位置付け, 残りの部分については 2022年度へさらに第2弾, 第3弾という形で延長して開催することとなりました. こうした難しい状況のなか, 柔軟に対応いただき, 我々の研究活動をサポートいただいた関係各所には, この場を借りて御礼申し上げます.

●連続講演者：小林真平 (北海道大学), Lynn Heller (University of Hannover), Sebastian Heller (University of Hannover)

●講演者：Fran Burstall (University of Bath), Josef Dorfmeister (TU Munich), Parker Evans (Rice University), Lynn Heller (University of Hannover), Sebastian Heller (University of Hannover), Nigel Hitchin (University of Oxford), 梶ヶ谷 徹 (東京理科大学), 河井 公大朗 (学習院大学), Robert Kusner (UMass Amherst), Katrin Leschke (University of Leicester), Hui Ma

(Tsinghua University), 望月 拓郎 (京都大学), 長友 康行 (明治大学), 乙藤 隆史 (日本大学), Charles Ouyang (UMass Amherst), Franz Pedit (UMass Amherst), Ulrich Pinkall (TU Berlin), Iskander Taimanov, Sergei Agapov (Novosibirsk State University), Martin Traizet (University of Tour), Michael Wolf (Rice University), 山本 光 (筑波大学), 安本 真士 (九州大学), 古賀 勇 (明治大学), Tetsuya Nakamura (UMass Amherst), 佐藤 雄一郎 (工学院大学), 宇田川 衷 (早稲田大学)

●報告集：ASPM から出版予定

(組織委員会委員長 大仁田義裕, 組織委員 安本真士 記)